

平成 26 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 26 年 1 2 月 4 日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学類・教授

申 請 者 名 小沢 喜仁

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・ 学会等) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事業名	日本機械学会材料力学部門 M&M2014 材料力学カンファレンス
事業実施期間	平成 26 年 7 月 18 日 ～ 平成 26 年 7 月 21 日
成果の概要	<p>7 月 18 日(金)～21 日(月)の 4 日間にわたり”花も実もある”ふくしまの地、福島大学金谷川キャンパスにおいて、M&M 2014 材料力学カンファレンスを開催いたしました。カンファレンスに集う研究者や技術者ばかりでなく、学生諸君らに、東日本大震災、津波の被害、加えて福島第一原子力発電所事故の影響から復興するふくしまの姿を自らの目でご覧いただき、材料と材料力学分野の研究の視点から我が国のものづくりの課題について議論をし、発信しました。</p> <p>カンファレンスにおいては、一般セッションに加えて、21 のオーガナイズド・セッション(OS)における学術講演、さらにフェロー賞対象ポスターセッションでの研究発表が行われ、420 編研究発表をいただき、参加登録者数は総計 513 名を数えました。特別講演として鈴木 浩氏(本学名誉教授)を迎え「東日本大震災が残した地域社会の課題」について講演をいただき、特別企画講演「福島第一原発事故を考える」では 3 名の研究者からの研究発表があり、さらに技術士会との連携による産学連携企画「震災に対する安全・安心を目指して」も行われ、科学技術とコミュニティについて考える契機となりました。OS では、若手研究者による異分野研究に耳を傾ける混合セッション、材料の疲労強度や微視的構造に関するセッションなどに加え、JST 復興促進センターとの連携による「復興を支える材料力学—科学技術イノベーションによる復興再生への挑戦—」など多彩な研究発表と熱心な質疑討論が行われました。日程前日となる 18 日には、IHI 相馬第一・第二工場、東北電力原町火力発電所への見学会、市民講座「再生可能性エネルギーについて考える」を開催しました。</p> <p>なお、実行委員会は、本学の教員 4 名に加えて、東北地域の大学、高専、公設試、企業から 9 名の実行委員を得て、共生システム理工学類創設から 10 周年を迎えた歴史の浅い工学部での開催を支えていただきました。</p>